

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	太幡 直也 (たばた なおや)	所属	愛知学院大学 総合政策学部
研究会等名称	欺瞞的コミュニケーション研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 会員 6名 (うち認定心理士 0名) 非会員 約 70名</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 本研究会は、欺瞞や隠蔽など、欺瞞的コミュニケーションに関する研究に関心のある研究者が、研究発表、議論を行うことを目的として、2011年9月に発足した。本年度は以下の研究集会を実施した。第18回研究集会については開催準備を進めていたものの、新型コロナウイルスの感染症拡大防止に鑑み、開催を中止した。なお、これまでの活動内容の詳細は、研究会のホームページ (http://drt.secret.jp/index.html) に掲載した。</p> <p><欺瞞的コミュニケーション研究会 第17回研究集会 (2019年9月13日)> 代表者、佐藤拓氏 (明星大学)、菊地史倫氏 (鉄道総合技術研究所) の3名を企画者として、日本心理学会第83回大会 (於：立命館大学) の公募シンポジウム『「隠す」心理を科学する—『騙しを受け入れる』コミュニケーション—』を開催した。話題提供者は、福田実奈氏 (同志社大学)、鈴木公啓氏 (東京未来大学)、新井洋輔氏 (東京福祉大学)、指定討論者は村井潤一郎氏 (文京学院大学) であり、概要は以下の通りである。</p> <p>概要：「騙しを受け入れる」コミュニケーションについて着目し、「隠す」という行為の特徴について再考することを目的とした。「騙しを受け入れる」主体には、行為をなす者 (行為者)、および行為をみる者 (観察者) が考えられる。そこで、行為者の視点からの研究として、嗜好品 (福田氏)、装い (鈴木氏) に関する研究を、観察者の視点からの研究として、手品 (新井氏) に関する研究を報告した。続いて、総合的な討論において、「隠される側」の視点からみた人間の「隠す」という行為の特徴について議論した。</p> <p><心理学ミュージアム作品の作成> 社会的貢献活動として、会員4名が以下の心理学ミュージアムの作品を制作した。</p> <p>特集企画 「日常のコミュニケーションにひそむ嘘」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人はみんな『嘘つき』? : 日常に見られる「嘘」の実態 ・みんなはどうして『うそ』をつくの? : 嘘の社会的な機能 ・やばい! バレたかも!?: 懸念的被透視感 ・嘘つきは目をそらす? : 嘘にまつわる神話 <p><将来計画> 来年度も引き続き、公開研究集会を開催する予定である。また、これまでの研究集会での発表成果をまとめた書籍を刊行する予定である。</p>		

研究集会参加者リスト

〈研究会名〉				
欺瞞的コミュニケーション研究会				
研究集会開催日：2019年 9月13日(金)				
	氏名	所属	会員	認定 心理士
1	太幡 直也	愛知学院大学	○	
2	佐藤 拓	明星大学	○	
3	村井 潤一郎	文京学院大学	○	
4	山本 直宏	山形県警察本部科学捜査研究所	○	
5	大塚 拓朗	兵庫県警察本部科学捜査研究所	○	
6	向井 暁	県立広島大学	○	
7	福田 実奈	北海道医療大学		
8	鈴木 公啓	東京未来大学		
9	新井 洋輔	東京福祉大学		
10	その他、非会員約70名			
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				

(様式5)

2020年 3月 23日

日本心理学会研究会 2019年度会計報告書

研究会名称 欺瞞的コミュニケーション研究会

研究会番号 研19018

助成金額 ¥30,000

年月日	項目	金額
2019年9月12日	印刷費（シンポジウム配布資料）	¥2,000
2019年9月13日	シンポジウム登壇者用のお茶	¥600
2020年3月末日	返金（日本心理学会）	¥27,400
支出合計		¥30,000